



妊娠成立にむけてダイナミックに変化する子宮内膜 ～プロテアーゼ調節から見る子宮内膜脱落膜化～

中村 織江 博士

(大阪府立母子保健総合医療センター研究所 代謝部門)

一般的にほ乳類は、一定期間、子を子宮で育ててから出産する「胎生」という生殖様式を用いています。母体にとって半分異物である胎子を一定期間母体組織に生着・生育させるために、子宮内膜は特殊な機能を備え、妊娠期間中は特別な分化をすることで妊娠の維持に寄与しています。妊娠中の子宮内膜が持つ特殊な機能には免疫寛容部位の成立や妊娠維持に必要なホルモン・成長因子・プロテアーゼの産生があり、これらは全て脱落膜で起きます。

本セミナーでは、マウス妊娠子宮脱落膜化に際し高発現を示す CTLA-2 α と、その結合相手となるプロテアーゼ カテプシン L の脱落膜における挙動を解析することで得られた、脱落膜化メカニズムに関する新しい知見を報告します。

日時： 2013 年 4 月 18 日 午後 3 時～4 時

場所： 15 号館 1 階 15102 セミナー室

世話人： 動物生命医科学科 西野佳以（内線 9383）

主催：京都産業大学総合生命科学部